

静岡で途中下車した。

好く心奴が破裂しなかつたものだ。

静岡の警察へ連れて行かれた時、日は暮れてゐた。

巡查達は俺が擲られた所の近くの静岡には途中下車させない方針だつたのが、俺が息を引きとりそうに見えたので、宿屋へとまらすとか言つて、四五人の子供をねかせておいて、其の中へ俺を割り込ませてねさした。

警察の裏手の保護室なのだ。

巡查が夜通し起きてゐて張番してゐる。

小砂利の廣場がある。

俺は子供等に氣嫌をとられたやうだ。

『何うか勘辨して下さい、お許し下さいませ、あきらめて靜かに精神を落ちつかせて下さい』とか一人の子供が、俺が飛び降りしてからの事を言つたりして、『あんたのやうな好い人はない』とか言つた。